



愛知工業大学情報電子専門学校
愛知工業大学名電高校
愛知工業大学附属中学校

目次:

理事長式辞要旨	2
後藤杯卓球大会	3
ネイチャー掲載	4
最優秀新人賞	5
金賞ダブル受賞	6
来春甲子園有力	7
世界の頭脳講義	8

発行所
名古屋電気学園
〒470-0392
豊田市八草町八千草1247
(0565)48-8177

名古屋電気学園創立九十九周年 を迎え、式典で永年勤続者表彰

学園は十一月十一日、創立記念九十九周年記念式典を名古屋市千種区の愛工大名電高校・喬徳館で行い、永年勤続の学園教職員を表彰しました。後藤淳理事長は式辞で、「表彰者はじめ学園の皆さんの力で、百周年の歴史が刻まれてきました。百周年へ向けて皆さんと一緒に学園、愛知工業大学を中心に盛り上げていきましよう」と呼びかけました。引き続き、「平成二十三年度物故者法要」を高校近くの覚王山日泰寺で営みました。



永年勤続後藤淳理事長(前列右から7人目)ら学園幹部と一緒に記念写真に収まる表彰者の皆さん(赤リボン)

創立記念式典

式典は午後零時半から喬徳館で後藤淳理事長、後藤泰之学長ら学園、各設置校関係者、永年勤続表彰者らが出席して行われました。表彰を前に理事長が「天に昇ると言われる辰年に、学園は創立百周年を迎えます。高校は野球部、吹奏楽部等で生徒の気合がものすごく感じられます。来年の百周年に向け、皆さんと一緒に学園、愛工大を中心に

愛工大名電高、愛工大附属中、愛工大情報電子専門学校とともに盛り上げていきましよう」と、式辞を述べました。この後、一柳勝宏愛工大電気学科教授ら勤続四十五年、勤続三十五年、二十五年、十五年の教職員三十一人一人ひとりに賞状と記念品を手渡しました。表彰者を代表し鈴木達夫愛工大経営学科教授が「学園と共に年を重ね、あつという間の年月でした。学園が時代の変遷の中、発展し

てきたのは理事長先生ら学園役員時代に即応した経営方針があったからです。その学園に今日まで勤務できたことを誇りに感じています」と、謝辞を述べました。式典の演奏を全国吹奏楽コンクール高校の部で金賞に輝いた名電高吹奏楽部が担当し花を添えました。表彰者は、次の皆さんです。

【勤続四十五年】 大学 電気学科教授・一柳勝宏 同・落合鎮康 経営学科 教授・鈴木達夫 中学 若水渉 外部副部長・小田悠祐 (四人)

【勤続三十五年】 大学 電気学科教授・依田正之 建築学科教授・尾形素臣 同・神谷清仁 経営学科 教授・小田哲久 教学センター 課長・佐藤友泰 経営学系事務センター 自由ヶ丘 キャンパス事務室事務長・宇田秀樹 情報科学系事務室主査・小島雅子 工学系事務室主査・林葉子 高校 教諭・大鐘一良 同・粥川桂司 中学 教諭・杉浦滋 学園 管理部部长・矢野敬典 (十二人)



後藤淳理事長はじめ学園、各設置校関係者らが出席し営まれた物故者法要

物故者法要

基礎教育センター教授・柳井裕道 教学センター次長・河野信 高校 教諭・中村栄一 中学 教諭・河島勝利 若水事務部主査・増田朗 学園 総務部次長・岩井貞一 財務課課長・松井俊治 (七人)

【勤続十五年】 大学 機械学科教授・高木誠 キヤリアセンター 課長・高島田孝之 図書課係長・足立由美子 高校 教諭・石井雅剛 同・岩田崇志 同・大石敬治 専門学校 教授・田中正史 学園 管財課係長・川口亨 広報課係長・中條伸子 (九人)

(後藤淳理事長の式辞要旨は二ページに掲載)

後藤淳理事長 後藤泰之

後藤淳理事長記念式典式辞要旨

おはようございます。

今日ここに99周年の創立記念式典を迎えましたが、来年は百周年ということでいろいろ(記念事業を)予定しています。学園は大正元年9月に名古屋電気学講習所として創立、12月に名古屋電気学校の認可を得ました。毎年、永年勤続表彰に続き、学園関係の物故者法要を営むのが恒例となっています。永年勤続者の皆さんを見ますと、長い人は45年と人生の半分以上を学園で過ごした人もいます。大勢の表彰者がいるのは、学園がそれだけ多くの人によりここまで来たという歴史を感じます。



さて、百年と一口に言っても、世界、地球上のこの百年は一番変動の激しい時だったのかも知れません。世界恐慌あり、世界大戦ありでした。日本も戦争、終戦そして戦後の混乱を経験しましたが、日本人のすごい底力で経済復興を成し遂げました。しかし、バブル経済破綻後は元気がありません。特に今年は三月の東北の大震災、また、台風による豪雨災害といろいろな予想以上の災害が起きました。さらに日本だけでなく、今のタイの大洪水のように世界中で気候変動による災害が増えています。これは地球が何かいろいろな重みに耐えかね、“くたびれてきた”という感じの災害が出てきていると思います。

今年はウサギ年で、あまり良い年ではないと聞いたことがあります。来年は辰年で天に昇るといわれる年に(学園は)百年を迎えます。それに向けて様々なところで、“頑張ろう”という機運が高まっています。この間も久しぶりに、甲子園の切符がかかった高校野球を見ました。また、高校吹奏楽部も金賞獲得等と生徒たちの“気合”がものすごく感じられるように、気持ちが高まっています。

百周年に向けて2年前に開学50周年を迎えた大学では昭和40年から(八草で)キャンパスづくりに取り掛かり、古い建物も増えたため今、耐震化工事や建て替えと環境整備を図っています。(名古屋市千種区若水の若水キャンパス内には)百周年記念館(仮称)を建設中で、各設置校も新しく見直ししていかなければなりません。

今日の表彰者の名前を見ていると学園に入った頃の(皆さんの)ことが思い出されます。こうして長年勤めて頂いた皆さんの力で(学園の)百年の歴史が刻まれてきたと思っています。皆さんと一緒に学園、大学を中心に愛工大名電高校、愛工大附属中学校、愛工大情報電子専門学校とともに百周年を盛り上げていきたいと思っています。(写真は式辞を述べる後藤淳理事長)

学長ら学園、各設置校の教職員、学生・生徒、遺族、同窓会、後援会関係者が参列し営まれました。読経が流れる中、後藤淳理事長が本堂ご本尊前で焼香、合掌したのに続き、本年度に亡くなられた元教職員、学生の遺族、参列者が順次、焼香しました。

後藤淳理事長、後藤泰之学長らは物故者法要の後、小雨の降る中、恒例となっている日泰寺近くの学園慰霊碑等を参拝。職員の手できれいに掃き清められ、線香のたかれた碑の前で静かに手を合わせていました。

人事異動

- ()内は前職・は兼務
- 【新規委嘱】 10月1日 (大学)
- 工学部電気学科客員教授 大熊 繁
- 【出向採用】 10月1日 (大学)
- 工学部電気学科技術職員 近藤 茂之
- 【所属変更】 10月1日 (事務局)

事務局システム管理部システム管理課主任(若水事務局事務主任・事務局システム管理部システム管理課事務主任)

中島 猛

(大学事務局)

学務部経営学系事務センター 本山キャンパス事務室 主査(図書課主査)

紫藤 針枝

学務部経営学系事務センター 自由ヶ丘キャンパス事務室嘱託職員(本山キャンパス事務室嘱託職員)

中村 隆安

【委嘱終了】 8月31日 (事務局)

秘書室有期契約職員

若杉 徳子

【委嘱終了】 9月30日 (事務局)

総務部警備課嘱託職員

深見 憲治

【産前産後休暇】 7月1日~10月28日 (大学事務局)

学務部情報科学系事務室 事務職員

高田 奈美

ピンポン外交四十周年記念の卓球大会開催



「ピンポン外交四十周年記念」を兼ねた「第40回後藤杯卓球選手権大会」が九月二十三日、二十五日、ピンポン外交ゆかりの愛知県体育館で往年の日中両国選手を招き、盛大に行われました。

「第三十一回世界卓球選手権大会」が今から四十年前の昭和四十六年三月、名古屋市中区で開催されました。当時、国交のなかつた中国選手団が参加し、大会中に中国が突然、米国選手団の中国招待を発表。それを契機にニクソン米大統領、田中角栄首相の訪中、両国の国交正常化に至ったことから、それらを称して「ピンポン外交」と呼ばれています。その立役者が当時、国際卓球連盟会長代行、日本卓球協会会長で名古屋電気学園理事長、愛工大学長



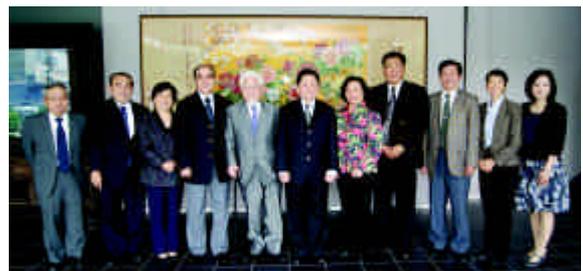
ピンポン外交生みの親、後藤鉦二先生の写真の前で開会式の挨拶をする県卓協会長の後藤淳理事長

だった後藤鉦二先生(故人)です。「世界トップクラスの中国選手が参加しない世界大会は意味がない」と大会開催直前に中国へ赴き、周恩来首相との会談「写真上右」を通し、中国選手団の参加を実現しました。後藤杯卓球選手権大会は後藤鉦二先生をしのび愛知県卓球協会(会長・後藤淳理事長)主催で毎年開催。今回はピンポン外交四十周年にあたるため四十年前の大会に参加した日中両国の選手ら関係者を大会に招待しました。中国から二十六年(二十八回大会で男子シングルス三連覇の莊則棟さん、徐寅生さん(二十八回大会男子ダブルス優勝)、

恩庭さん(三十二回大会男子シングルス優勝)、日本が三十一回大会女子団体優勝の杉本安子さん(旧姓今野安子さん、元愛工大卓球部)ら同メンバー、同じく男子シングルス準優勝の伊藤繁雄さんら。

試合に先立ち開会式が行われ、後藤淳理事長が二階観客席に飾られた周首相と握手する後藤鉦二先生の写真等を前にピンポン外交に触れながら「かつて日本、中国は切磋琢磨して競い合ってきました。この気持ち忘れずに世界の大会へ出られるよう努力してください」と挨拶。また、中国の徐さんも「日本は卓球王国といわれ、我々は日本に勝つために努力しました」と話しました。愛工大名電高チアリーディング部や吹奏楽部による歓迎の演技や演奏があり、選手や観客から大きな拍手を受けました。卓球選手権大会は男女ダブルス、一般男女、ジュニア男女各シングルスに約六百人の選手が出場し、三日間にわたり熱戦を繰り広げました。

莊則棟さんら後藤淳理事長を表敬訪問



後藤淳理事長(右から7人目)を囲み、?さん夫妻(同2、4人目)、徐さん夫妻(同5、6人目)、莊さん夫妻(同8、9人目)、李さん(同3人目)ら

莊さん、徐さん、?さんの各夫妻、大会で通訳を務めた李有林さんは大会前日の九月二十二日、八草キャンパス内の学園本部に後藤淳理事長を表敬訪問。玄関前で教職員の拍手で迎えられ、理事長室で記念品を交換し、和やかに歓談しました。また、理事長の案内で本部棟内にある後藤鉦二、後藤淳両理事長に関わる品や資料を収めた資料室を見学し、関わりのある資料等を熱心に見ていました。

東南大学学生団来学

愛工大と姉妹校の中国・南京市にある東南大学生団が十月八日、大学を表敬訪問しました。一行は張俊琴医学院副院長を団長に教職員二人、学生十人。八草キャンパスの本部棟一階正面玄関前で小嶋憲三副学長と学園職員らの拍手の出迎えを受けた後、二階会議室で副学長を囲み、両大学の施設、学生数などを話題に和やかに歓談しました。学生は今年九月に東南大を訪問した本学の学生の案内で、開催中の大学祭を見学。中国の大学には大学祭の様なイベントがないため、各会場を回り、祭りを満喫しました。



小嶋副学長(後列右から4人目)、張团长(同3人目)を囲む東南大学生団

各分野で輝く成果

学術、スポーツ界で愛工大はじめ各設置校の教員、学生が素晴らしい成果をあげています。

学術分野

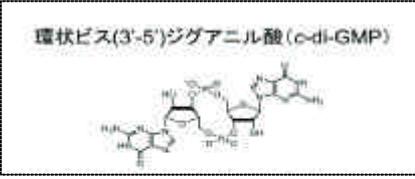
英科学誌「ネイチャー」に掲載
早川教授研究グループの論文が



早川芳宏愛工大応用化学学科教授 = 写真 = らの研究グループが、細菌(バクテリア)の細胞内で生合成される超微量物質の化合物「c-di-GMP」を取り込んで免疫力を増強させる、レセプタータンパク質「STING(スティング)」を米国のグループと共同で発見。その共著論文が9月下旬の英科学誌「ネイチャー(電子版)」に掲載されました。
「c-di-GMP」は、細菌内の免疫活性化に関わるレセプタータンパク質に働く化合物として知られるが、近年、人などの哺乳動物にも「c-di-GMP」を認識するレセプタータンパク質が存在、免疫反応を誘起することが明らかになったものの未発見でした。理由は「c-di-GMP」の大量合成が難しく、予想された生物機能の実証実験や未知の生物機能探索研究を行うことが極めて困難なためでした。核酸有機化学を専門とする早川教授は7年前、「c-di-GMP」の大量合成法に成功、「c-di-GMP」の生物機能実証研究の扉を開け、各国の研究者に多量の「c-di-GMP」を提供し、共同研究を行っています。

免疫力を増強させるレセプタータンパク質の発見

今回、米国・カリフォルニア大学パークレー校の若手生物学研究者ラッセル・ヴァンス博士との研究で、スティングと呼ばれるタンパク質が哺乳動物において「c-di-GMP」を認識し、同化合物と結合すると“スイッチオン”の状態になり免疫機能を発現するタンパク質と突き止めました。実験で、普通のマウスは「c-di-GMP」の投与で免疫機能を発揮するが、N-エチル N エチル尿素を投与されたマウスが免疫機能を失うことを見つけ、免疫誘起と密接な関係にある遺伝子が何らかの損傷を受けたと推測。そのマウスの遺伝子の構造を調べたところ、スティングの遺伝子だけ破壊されていたことが分かり、「c-di-GMP」により“スイッチオン”となるレセプタータンパク質はスティングとみて、試験管で結合させて実験結果を確認しました。



早川教授は「『c-di-GMP』やその関連化合物は、薬剤耐性菌を含む細菌性疾患やウイルス性疾患の予防治療薬、抗がん剤としての可能性を秘める化合物です。今後、真に有効な治療薬を開発するには、『c-di-GMP』の免疫活性化、メカニズムを詳細に知ることが必須であり、そのためには『c-di-GMP』を認識して、宿主の免疫活性化に実際関与するレセプタータンパク質を発見することが不可欠です」と話しています。

大学院工学
研究科博士前
期課程機械工
学専攻二年の
伊藤聖也君が
九月十八日
十日まで中国
の天津市で開
かれた「第七
回アジア太平
洋乾燥国際会
議」(世界乾
燥学会主催)
でポスター賞
を受賞しまし
た。

愛工大院生が国際会議でポスター賞受賞

伊藤君は渡邊藤雄総合技術研究所教授らとエアコンや冷凍機等に広く使われていたポスター賞の研究開発で、マイクロ波照射型の導入による高性能・コンパクト化の研究に取り組みました。伊藤君は来春、名古屋大学大学院博士後期課程に進むことが決まっており、「さらにこの研究を継続していく」と話していました。



ポスター賞を手にする渡邊教授、伊藤君、黄総研ポスドクトラル研究員(左から)

大学はじめ各設置校の教員、学生らが

学生が建築新人戦最優秀新人賞



愛工大建築学科住居デザイン専攻三年生の石川睦君が十月七日、九日、大阪市で開催された学生設計展として国内最大級のイベントといわれる「建築新人戦2011」で最優秀新人賞に選ばれました。「建築新人戦2011実行委員会」が大学の建築学系の三年生までを対象に他大学生との交流、作品の比較等を通して自身の構想や技術を問い直すことを目的にそれぞれ大学の取り組

んだ演習課題の作品を募集しました。三回目の今回は昨年を上回る千十三人の応募、出品数五百二十三作品に上りました。石川君は今年の授業の課題として制作した公園と住宅を結びつけた「ふたつの壁と隅の家」を新人戦向けに練り直し、応募。図面だけによる一次審査にパスした後、模型作品を約三週間かけて作り上げ、十月七日から梅田スカイビル内で行われた審査に臨みました。



公開審査の制作者プレゼン等を経て四点が最終審査に残りました。審査員の投票で、建物の真ん中に樹木を植えこんだ筒状の空間を設けた意表をつく石川君のデザイン等が「未知の魅力」と可能性を感じると票を集め、最優秀新人賞に選ばれました。【写真は石川睦君と模型作品】

土木工学専攻の2年生チームが堂々、3位



愛工大土木工学専攻の2年生チームが九月二日、三日

日の両日、京都大桂キヤンパス(京都市)で行われた「Japan Steel Bridge Competition 2011 (JSBC 2011)」総合部門で三位に輝きました。

JSBC 2011は学生自身が橋梁の設計、製作と架設を競い合う競技で、鋼構造に関する三研究者ネットワーク(関東・東北、中部、関西)が日本鉄鋼連盟に加え日本橋梁建設協会の後援も受け、大会名も「Japan Steel Bridge Competition」に改称、開催しました。昨年九月に本学で行われた国内初

Steel Bridge Competition



合部門で、昨年優勝の東

「写真は、AITチームB」と、橋梁造りに取り組む同チーム「京都大桂キヤンパスで」

Steel Bridge Competition 2010」に続く大会で、本学の二チームを含む国内十二大学から合わせて十四チームが参加しました。台風接近という天候不順から内容等を変更し、競技も美観、審査員美観、総合の三部門で行われました。土木工学専攻二年生の男女六人でつくる本学の「AITチームB」が橋梁(長さ三六、高さ六十センチ)に重りをかけた時にどれだけ設計基準の許容値内に収まっているかを競う構造部門のみ、その評価と価値となつた。合部門で、昨年優勝の東工業大、広島大に次いで三位の成績に輝きました。【写真は、AITチームB」と、橋梁造りに取り組む同チーム「京都大桂キヤンパスで」

ポスターグランプリ



愛工大メディア情報専攻二年の飛田涼太君(メディア情報研究会)が八月に行われた「第2回ポスターグランプリ」で協賛会社賞を受賞しました。愛知県印刷工業組合等が愛知など東海三県在住の大学、専門学校、高校の学生、生徒を対象に将来のグラフィックデザイン界を担う人たちの能力を伸ばすことなどを目的に「まちの魅力を伝えよう！」をテーマに作品を募集。鳥居研究室(鳥居一平情報科学科准教授)は、美術系学生の応募がある同グランプリが学生の實力を試す場ととらえ、研究室のメディア情報研究会の学生に参加を呼びかけました。飛田君のほか、丹羽崇仁君「メディア情報専攻三年、加藤旭倫君」同年、岡田菜々さん「同一年、高橋潤平君」同一年「も入選しました」写真。

愛工大メディア情報専攻二年の飛田涼太君(メディア情報研究会)が八月に行われた「第2回ポスターグランプリ」で協賛会社賞を受賞しました。愛知県印刷工業組合等が愛知など東海三県在住の大学、専門学校、高校の学生、生徒を対象に将来のグラフィックデザイン界を担う人たちの能力を伸ばすことなどを目的に「まちの魅力を伝えよう！」をテーマに作品を募集。鳥居研究室(鳥居一平情報科学科准教授)は、美術系学生の応募がある同グランプリが学生の實力を試す場ととらえ、研究室のメディア情報研究会の学生に参加を呼びかけました。飛田君のほか、丹羽崇仁君「メディア情報専攻三年、加藤旭倫君」同年、岡田菜々さん「同一年、高橋潤平君」同一年「も入選しました」写真。

院生と学生がアンドロイド
アプリコンテストで入賞



愛工大大学
院工学研究科
博士前期課程
一年松尾雄作
君、情報科学
部一年佐藤太
一君、榊晴香
さんが「アン
드로이드アプ
リケーション
コンテスト」
のアプリケー

ション開発部門で入賞しま
した。松尾君は上位五作品
に入り、グランプリに続く
敢闘賞を受賞しました。

NTTドコモ東海支社と
県内の三大学による産学共
同プロジェクト、「NEXT
T COMMUNICAT
ION FORUM」が、
東海四県の高専以上の学生
を対象にアンドロイド(携
帯電話向けに開発された新
プラットフォーム)のアプリ
ケーションコンテストを実
施し、アプリ開発部門、ア
イデア部門の二部門につい
て作品を募集しました。
松尾君は菱田隆彰情報科
学科准教授の指導で、勉強

名電高 吹奏楽部 ダブル金賞の快挙



愛工大名電高
吹奏楽部が写真
は十月二十三
日、東京・普門
館で開かれた第
59回全日本吹奏
楽コンクールの
高校の部で最高
の金賞を受賞し
ました。コンク
ールには全国
三千百を超す参
加校の中から二
十九校が全国

愛工大名電高
吹奏楽部が写真
は十月二十三
日、東京・普門
館で開かれた第
59回全日本吹奏
楽コンクールの
高校の部で最高
の金賞を受賞し
ました。コンク
ールには全国
三千百を超す参
加校の中から二
十九校が全国

時間の管理をスムーズにで
きる「Shake Sto
p watch」を開発、佐
藤君、榊さんは共同で小遣
い帳「かんたん!マネーメ
モ」を開発。それぞれアプ
リ開発部門に応募、いずれ
も入賞を果たしました。
うち松尾君は上位五作品
の一つに選ばれ、十月二十
九日のグランプリ審査で敢
闘賞に入りました。
【写真は、右が菱田准教
授(右)と松尾君、左が佐
藤君(左)と榊さん】

スポーツ 分野



から二人目
が長坂公靖
選手。十五
回目出場
の今回は
17位
でした。

本学ほか全国二十四大学
による「秩父宮賜杯全日本
大学駅伝対校選手権大会」
が十一月六日、熱田神宮
伊勢神宮間10.6・8キロ
で行われました。写真、右

愛工大陸上
競技部が3
年ぶり出場



を成し遂げ
ました。
金賞をダブ
ル受賞する
という快挙
を成し遂げ
ました。

大会に出場しました。
また、同部マーチングパ
ンドが十一月二十
日、大阪城ホールで開かれ
た第24回全
日本マーチ
ングコンテ
スト高校以
上の部で金
賞に輝き、
金賞をダブ
ル受賞する
という快挙
を成し遂げ
ました。

愛工大生がレーシングカート・アジア大会に日本代表で出場



機械学科2年の長野大地君 = 写真左 = が来年2月、マレーシアで行われるレー
シングカートのアジア大会に2年連続で日本代表として出場します。また、11月5日
~6日、滋賀県大津市の琵琶湖スポーツランドで開催された「第35回TOYOTA SLカートミーティング全国
大会」でも優勝、チャンピオンとなりました。

長野君は2月の岡山県・中山サーキットを皮切りに国内の5会場で行
われたポイント制の「地方選手権」(1回は台風で中止)で本年のチ
ャンピオンとなり、日本代表に決まりました。4回のうち2月の中山サ
ーキットと5月の琵琶湖スポーツランドでそれぞれ優勝し、高ポ
イントを獲得したことによります。また、地方の「SLレース大会」で好成
績を挙げた選手による「第35回TOYOTA SLカートミーティング全国大
会」では予選を2位で通過、決勝では序盤からトップを奪い2位以下を大きく引き離し優勝しまし
た。



「第35回TOYOTA SLカート
ミーティング全国大会」で首
位をキープし独走の長野選手

長野君は小学6年生からレーシングカートを始め、何回となく全国優勝を体験。また、2008年
に高校3年で「アジアパシフィック大会」(マカオ)に日本代表で出場、優勝、昨年の大会(マ
レーシア)も出場し、3位に入りました。現在、大学のレーシングカート部に所属し、豊田市内
のサーキット場で練習しています。同部も8月に仙台で行われたポイント制による「全国学生カ
ート大会」で優勝をしています。

野球部、来春の甲子園出場を有力に



愛工大 名電高校 野球部は 十月三十 日、岐阜 市の長良 川球場で 行われた

「第64回秋季東海地区高校野球大会」で三重(三重一位)に43で勝利し、7年ぶり5度目の優勝を果たしました。この結果、東海地区代表として明治神宮大会へ出場、準優勝。また、来春の選抜大会出場が有力となりました。

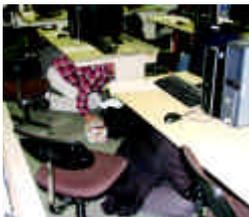


田は、優勝の瞬間、喜びました。右は、優勝の瞬間、投手の周りに集まり選手。左上は好投手・浜田投手。優勝旗を先頭にグラウンドを行進する選手たち

県の各大会3位までの学校で明治神宮大会代表校を争う「秋季東海地区大会」に出場しました。準々決勝で菰野(三重2位)を41、準決勝で至学館(愛知3位)を41でそれぞれ退け、決勝で三重と対戦。三回までに3点を先取、九回裏に1点差に迫られましたが、連投の浜田達郎投手が最速147km/hの剛球勝負で43で逃げ切りました。最終打者を打ち取った瞬間、選手らが浜田投手のもとに駆け寄り、喜びを爆発させていました。表彰式で優勝旗を授与された後、優勝旗を先頭にグラウンドを行進し、大きな拍手を受けました。

学園、大学など全設置校参加し大規模防災訓練を実施

東日本に大災害をもたらした東北地方太平洋沖地震など連動型巨大地震に備えた防災訓練が十月二十六日、愛工大のほか愛工大情報電子専門学校、愛工大名電高校、愛工大附属中学校で一斉に行われました。今回で六回目となる訓練には学生、生徒、教職員合わせ約五千六百人のほか、豊田市消防本部、大学近隣の瀬戸市の町内会も初参加しました。



写真上は、机の下にもぐる学生(専門学校)。下は、建物に取り残された人をはしご車で救出(八草キャンパス)

訓練は地震警報発令時等の冷静な行動、被害の最小限、学生、生徒、教職員の安全確保等を目的に実施。「紀伊半島沖で東海・東南海連動型地震が発生、規模はマグニチュード8.3」の想定でサイレンに続く、「地震です」の防災放送を受けて訓練をスタート。八草キャンパスでは、校内で授業中の学生が



左は避難する学生ら(八草キャンパス)。下は、避難場所に集合した生徒(高校)



机の下にもぐり、揺れが収まると一斉に避難場所のサツカー場へ向かいました。この間、建物に取り残された人を出動した豊田市消防本部のはしご車が救出、防災対策班員らが放水、けが人搬出等を行いました。自由ヶ丘、本山両大学キャンパスのほか専門学校、高校、附属中学校でも八草キャンパスと同様に防災訓練を行い、落ち着いて各訓練に取り組んでいました。



設置校で祭

祭りの秋、各設置校で学祭がにぎやかに繰り広げられました。



大学では十月八、九日を中心と呼び物の「工科展」やお笑いライブのステージ「写真右」などの各イベントがあり、大勢の人でにぎわいました。

高校では九月二十二日、北校舎を主会場に開かれ、初の試みのパネルディスカッションのほか恒例のクラスごとのダンス、展示などが繰り広げられました。

附中では九月七日、八日、南校舎と名古屋市公会堂を会場に開催。市公会堂では、弁論発表、クラスごとのダンス、写真左、手作り映画などが披露され、楽しませました。

クロトー教授、遠藤教授、名電高生徒に熱く語る



星間物質の中に炭素化合物を探す研究でサッカーボール状をした炭素原子60個からなるC60フラレンを発見、ノーベル化学賞を受賞した英国人で米国・フロリダ州立大学のハロルド・クロトー教授＝写真左上＝が9月22日、南校舎地下1階大講義室で普通科1年生111人に講演しました。知人の遠藤守信愛工大客員教授（信州大教授）＝写真左下＝の紹介で昨年夏、講演。その時の生徒の熱意に感心した教授が「今年もやりたい」と遠藤教授に申し入れて、今回の講演が実現しました。クロトー教授は生徒を前に若い時は化学より役者やデザイナーに関心を持っていたと話し、星間物質の研究からサッカーボール状のC60フラレン発見に至った経緯、遠藤教授が大量生産技術を開発したフラレンの仲間、カーボンナノチューブなどを分かりやすく解説しました。その中で、生徒はクロトー教授の用意してきたモデルキットを使ってC60フラレン作りに挑戦し、不思議な形状について肌で体験しました。

遠藤教授も10月27日、喬徳館で全1年生を対象に「ナノテクノロジーとは」と題して、特別講演を行いました。教授は人類の歴史を1年に置き換え、人類が農耕を始めたのは12月31日午後11時50分過ぎの一瞬という話から地球温暖化を招いているエネルギー消費の現況、なぜナノテクノロジーが必要になるのかをスライドを見せ、分かりやすく話しました。講義の終わりに生徒に向かいイチロー選手らを例に挙げ「努力のあとに栄光が待っている。ネバーギブアップを忘れずに頑張ってください」と激励しました。

君(三年)、同大会大学生・研究者部門に高校生として



愛工大附属中学校生徒ら名古屋市内パレード

生徒が十月十六日、名古屋市の「名古屋まつり行列」に参加し、市内の目抜き通りをパレードしました。参加したのは、七月の「ロボカップ2011世界大会」(会場・イスタンプール)レスキューチャレンジAブライマリーで団体準優勝、個人3位になった三村柚貴君(一年)のほか同サッカーチャレンジャーBに出場の加藤拓

国内初出場となる名電高情報デザイン部員ら。三村君、加藤君らの持つ愛工大附属中学校の横断幕を先頭に愛工大名電高高校、「ロボカップジュニア世界大会 祝準優勝三村柚貴」や「RoboCup Rescue 世界大会高校生初出場愛工大名電高高校情報デザイン部」Chitoseの各横断幕を生徒らが行進。さらに台車に乗せた大学のイメージキヤラクター「鉄人28号」の人形も加わり、学園の各設置校をPRするパレードとなりました。一行はまつりの主役、郷土英傑行列の前を市役所前から栄までの目抜き通りを行進。沿道の市民から「おめでとう」の大きなかけ声や拍手を受けていました。(写真は、右から横断幕を持ってパレードする附属中、高校生徒、ロボカップジュニアの横断幕を持つ附属中生徒、ロボカップレスキュー世界大会の横断幕を持つ高校生)

編集後記

今年「実りの秋」ならぬ「実りの学園」といえます。高校野球部が東海地区大会で七年ぶりに優勝。さらにその勢いをもって明治神宮野球大会でも勝ち進みましたが、決勝で惜しくも涙を。しかし、来春の甲子園出場が「有力」となりました。明治神宮野球大会といえ、大学硬式野球部も秋季1部リーグで2位となり、代表校決定戦に進みましたが、決勝で敗れ今一歩でした。さらに高校吹奏楽部が吹奏楽とマーチングバンド全国大会でそれぞれ金賞を受賞。金賞のダブル受賞は本校初の快挙です。中学生も負けていません。ロボット部所属の附属中一年生がトルコ・イスタンブールで行われた「ロボカップ2011世界大会」で、団体準優勝と個人3位に輝きました。高校の情報デザイン部員も同大会大学生・研究者部門に日本の高校生として初出場。これまた快挙といえます。来年の学園百周年へ向け、勢いがついてきました。(久)